



平成24年3月期 決算説明会資料

平成24年6月5日（大阪）

平成24年6月6日（東京）

石原薬品株式会社

（東証二部・大証二部）

目次

➤ 平成24年3月期 決算の概要 (代表取締役社長 竹森 莞爾)

平成24年3月期 決算の概要
平成24年3月期の営業の状況
営業品目別売上高3期比較
次期(平成25年3月期) 業績予想・業績予想のポイント
当面の対処すべき課題
株主還元・内部留保の考え方
中期経営計画について

➤ 決算の詳細 (常務取締役 浅野 真司)

損益計算書の概要
製品・商品別売上高比率・売上総利益率・輸出比率推移
貸借対照表の概要
キャッシュ・フロー計算書の概要
キャッシュ・フローと設備投資額の推移

➤ 新技術、新製品開発の状況 (代表取締役専務 時澤 元一)

技術動向
新製品開発の状況 (フォトシンタリング型導電性銅ナノインクについて)
めっき製品紹介

《参考資料》 経営の基本方針
当社の特徴
営業品目別売上高推移 (平成14年度実績～平成24年度予想)
研究開発人員と研究開発費
業績の推移と配当
総資産・純資産・1株当たり純資産・自己資本比率の推移

平成24年3月期 決算の概要 （代表取締役社長 竹森 莞爾）

東日本大震災や原発事故の影響から徐々に回復するも世界経済の減速、円高、タイの洪水の生産への影響等があり混迷度を深めた。
スマートフォン、タブレット端末の急速な普及による需給拡大を受け、売上が伸びた。
販売品目の製品・商品別構成が大きく変わり利益率がダウン。

（単位：億円、％）

	平成23年3月期	平成24年3月期				修正発表値	修正発表との差異
	年間 (a)	上期	下期	年間 (b)	差異 (b)-(a)	金額 (c)	差異 (b)-(c)
売上高	142.0	78.4	76.8	155.2	13.1	154.0	1.2
売上総利益	38.4	19.2	18.1	37.4	1.0	37.8	0.4
営業利益	9.2	3.8	2.9	6.8	2.4	6.5	0.3
経常利益	9.4	4.0	3.3	7.3	2.1	7.0	0.3
当期純利益	4.5	2.5	1.2	3.7	0.8	4.5	0.8
1株当たり当期純利益(円)	65.67			50.09			

（平成23年10月28日発表）

平成23年3月期との差異内容

◆ 売上高（13.1億円）

製品売上 6.9億円
商品売上 + 20.0億円

（
金属表面処理剤
及び機器等 + 15.7億円
電子材料 2.5億円
自動車用化学製品等 + 0.2億円
工業薬品 0.3億円
）

◆ 売上総利益（1.0億円）

製品売上総利益 4.0億円
商品売上総利益 + 2.9億円

◆ 当期純利益（0.8億円）

売上総利益 1.0億円
販管費増 1.4億円
営業利益 2.4億円
営業外損益 + 0.3億円
経常利益 2.1億円
特別損益 + 2.0億円
投資有価証券評価損 + 1.6億円
資産除去債務 + 0.3億円
法人税等 0.7億円
当期純利益 0.8億円

平成24年3月期の営業の状況

電子関連分野 売上高 95.8億円（前期 82.6億円 16.0%増）売上構成比 61.8%

パソコン、薄型テレビ等デジタル機器販売の低迷を受け、電子デバイスの出荷減少、価格下落等低迷する中、スマートフォン、タブレット端末の市場が拡大。

金属表面処理剤及び機器等 売上高 83.4億円（前期 67.6億円 23.2%増）売上構成比53.8%

電子部品用外装めっき液

国内市場は、デジタル機器等の需要低迷で関連するめっき液は低調に推移。

海外市場は、海外生産移管の影響やスマートフォン等に搭載する半導体パッケージ向けウェハーバンブめっき液を中心に需要拡大。

化成処理液自動管理装置及び試薬

スマートフォン、タブレット端末に関連するプリント基板、タッチパネルメーカーへの管理装置導入が好調。

電子材料 売上高 12.4億円（前期 14.9億円 16.7%減）売上構成比8.0%

ニッケル超微粉

需要先のセラミックコンデンサの伸び悩みにより納入数量減、単価下落で販売は低調。

機能材料加工品

半導体製造装置向け、液晶製造装置向けの部品需要ともに低調に推移。

自動車用品分野 売上高 16.0億円（前期 15.7億円 1.4%増）売上構成比 10.3%

カーメーカー向けの一部ケミカル品の減少があったが、エアコンフィルター標準装備に伴い、フィルター交換時にエアコン洗浄施工を促進。また、補修用コンパウンドの新製品も順調に推移し販売は伸長。

工業薬品分野 売上高 43.3億円（前期 43.6億円 0.7%減）売上構成比 27.9%

前半好調であった中国・アセアン向け特殊鋼、高級鋼材の輸出は、後半に入り減速。

これらの影響を受け、特殊鋼用薬剤は伸びたが、一般薬剤は減少、化学向けの塩ビ触媒も海外向けが円高で減少。

営業品目別売上高 3 期比較

(単位：億円)

	平成23年3月期 (a)		平成24年3月期 (b)		差異 (b)-(a)	平成25年3月期 (予想)(c)		差異 (c)-(b)
製品 金属表面処理剤及び機器等	44.3	31.2%	36.2	23.4%	8.1	37.7	23.8%	1.5
電子材料	3.5	2.5%	3.3	2.1%	0.1	4.1	2.6%	0.7
電子関連分野 計	47.8	33.7%	39.5	25.5%	8.2	41.8	26.4%	2.2
自動車用化学製品等	10.7	7.5%	12.0	7.7%	1.3	12.5	7.9%	0.5
工業薬品	2.3	1.6%	2.4	1.5%	0.0	2.2	1.4%	0.1
製品合計	60.8	42.8%	53.9	34.7%	6.9	56.5	35.7%	2.6
商品 金属表面処理剤及び機器等	23.4	16.5%	47.2	30.4%	23.8	51.0	32.2%	3.8
電子材料	11.4	8.0%	9.1	5.9%	2.3	7.1	4.5%	2.0
電子関連分野 計	34.8	24.5%	56.3	36.3%	21.5	58.1	36.7%	1.8
自動車用化学製品等	5.1	3.6%	4.0	2.6%	1.1	3.8	2.4%	0.2
工業薬品	41.3	29.1%	41.0	26.4%	0.4	40.0	25.2%	1.0
商品合計	81.2	57.2%	101.3	65.3%	20.0	101.9	64.3%	0.6
合計	142.0	100.0%	155.2	100.0%	13.1	158.4	100.0%	3.2

次期（平成25年3月期）の業績予想

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(単位：億円，%)

	平成24年3月期 (実績)			平成25年3月期 (予想)			
	上期	下期	年間	上期	下期	年間	伸び率
売上高	78.4	76.8	155.2	76.8	81.6	158.4	102.0%
営業利益	3.8	2.9	6.8	2.7	4.3	7.0	103.0%
経常利益	4.0	3.3	7.3	3.1	4.6	7.7	104.6%
当期純利益	2.5	1.2	3.7	2.0	3.0	5.0	133.8%
1株当り当期純利益(円)	/		50.09	/		67.02	/
1株当り配当額(円)	/		30.00	/		30.00	/

次期（平成25年3月期）の業績予想のポイント

売上高・売上総利益

電子部品は、スマートフォン、タブレット端末向けの市場拡大が続くと見られ、ウェハーバンプめっき液需要は、海外ユーザー中心に引き続き伸びると見られる。半導体、COF向け等のめっき液の需要は、パソコン、薄型テレビ等の流通在庫の正常化や、新興国での需要拡大に期待されるが、急激な回復は厳しい状況と思われる。電子関連分野の機器、電子材料においてもスマートフォン、タブレット端末関連の基板やタッチパネル等の対応に注力する。

経費・人件費

設備投資、研究開発、販路拡大等、市場開拓費用の増大が見込まれるが、各部門、各費目において効果的な使用の徹底と節減に努める。

研究開発費：1,080百万円計画（製品売上高の19.1%）前年比122.7%

新製品開発、新技術開発の促進（ナノ粒子関連等 新規電子材料の開発）

設備投資：670百万円計画

新工場建屋、機械装置等の生産設備及び研究開発関連設備の増強。

当面の対処すべき課題

- (1) 金属ナノ粒子等新規電子材料を第5の事業の柱として立ち上げるため開発設備の拡充及び量産化のための新工場建設、機械等への設備投資を行い、事業化を加速する。
- (2) 既存事業の安定的な生産体制の維持のため、生産場所の分散及び生産能力の増強を図る。
- (3) グローバル化による事業の海外展開に対応し、海外拠点の拡充と対応要員の人材育成を促進。（海外留学制度の実施）
- (4) 様々な事業のリスクに対して、リスクマネジメントの推進、事業継続計画の見直し、継続的な改善を行い危機管理体制の強化を図る。

株主還元・内部留保の考え方

平成25年3月期の配当予想

安定配当を基本としつつも、業績、経営環境、財務状況を勘案して、中間配当15円、期末配当金15円の年間配当金30円を予定。

株主還元の基本方針

安定的かつ継続的な配当を基本としつつ、業績に応じ増配を検討するなど弾力的な還元策を図っていく方針であります。自己株式の取得等も資本政策として合わせて検討し、株主の皆さまに満足していただける株主還元を検討してまいります

内部留保

健全な経営基盤を維持するため内部留保の充実を図ってまいりますとともに、その活用については、研究開発や新事業、新技術開発など将来の企業価値を高めるための投資に優先して充当してまいります。

なお、株主還元と内部留保のバランスについては、当社のおかれた環境を考慮して慎重に検討を継続してまいります。

中期経営計画について

基本的な取り組み方針

- (1) 基礎となる3つの分野、4つの事業をバランスよく展開し、各々の事業の収益力を高め、その総体として会社の業績の伸長をはかる。
- (2) 自社製品比率を高め、売上総利益の拡大を図り、収益力の高い会社を目指す。
- (3) 新製品開発、新技術開発のため研究開発投資を積極的に行う。
- (4) 電子材料関連分野を重点開発分野と位置づけ、第5の事業を立ち上げる。
新規電子材料の開発、事業化（金属ナノ粒子他 新規電子材料）
- (5) 事業を安定的に展開するため生産場所の確立及び生産能力の増強を図っていく。

中期経営計画について

目標とする経営指標

- (1) 自社製品の売上拡大により、製品売上高の構成比50%以上を目標とし、売上総利益の拡大をはかる。
- (2) 売上高経常利益率10%以上を目標とする。
- (3) ROE（自己資本当期純利益率）・EPS（1株当たり当期純利益）の向上をはかる。

	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3 (予想)
製品割合 (%)	38.9	41.8	42.3	48.8	49.3	45.2	40.7	42.8	42.8	34.7	35.7
売上高経常利益率 (%)	6.4	8.3	10.2	12.3	12.5	10.1	3.2	4.9	6.7	4.7	4.9
ROE (%)	4.6	6.9	9.1	9.6	9.2	6.9	-0.6	4.9	3.5	2.8	3.7
EPS (円/株)	56.73	88.77	126.03	145.09	155.00	121.10	-9.76	87.10	65.67	50.09	67.02

当社を取り巻く外部環境は日々刻々と変化し、現在のような金融環境の激変期にあっては、ROEの向上とともに企業の持続性も重要な経営課題として認識しております。

このような状況のもとでは、強固な財務状況を維持し、株主、取引先等、全てのステークホルダーに安心していただける基盤の整備も重要であると考えております。

中期経営計画について（平成22年度～平成24年度予想）

数値目標

	平成23年3月期 実績（構成比）	平成24年3月期 実績（構成比）	平成25年3月期 予想（構成比）
製品売上高	60.8 億円 (42.8%)	53.9 億円 (34.7%)	56.5 億円 (35.7%)
商品売上高	81.2 億円 (57.2%)	101.3 億円 (65.3%)	101.9 億円 (64.3%)
計	142.0 億円	155.2 億円	158.4 億円
経常利益	9.4 億円	7.3 億円	7.7 億円
当期純利益	4.5 億円	3.7 億円	5.0 億円
売上高 経常利益率	6.7 %	4.7 %	4.9 %

（注）平成25年3月期は、平成22年6月発表の中期計画の最終年度となりますが、平成24年単年度として経営計画を策定しております。

なお、平成25年度をスタートとする第二次中期計画（3カ年）については、今後策定作業を進めていく予定であります。

決算の詳細 (常務取締役 浅野 真司)

損益計算書の概要

(単位：百万円)

	平成23年3月期		平成24年3月期		増減金額
	金額	構成比	金額	構成比	
売上高	14,209	100%	15,523	100%	1,314
売上原価	10,362	72.9%	11,782	75.9%	1,420
売上総利益	3,846	27.1%	3,740	24.1%	106
販売費及び一般管理費	2,923	20.6%	3,060	19.7%	137
営業利益	922	6.5%	679	4.4%	243
営業外収益	86	0.6%	91	0.6%	5
営業外費用	63	0.4%	34	0.2%	29
経常利益	945	6.7%	736	4.8%	209
特別利益	0	0.0%	0	0.0%	0
特別損失	301	2.1%	104	0.7%	197
税引前当期純利益	645	4.5%	632	4.1%	12
法人税等	186	1.3%	258	1.7%	72
当期純利益	458	3.2%	373	2.4%	84

(増減内容)

* 売上高 … + 1,314百万円

製品売上 … 690百万円

商品売上 … + 2,004百万円

輸出比率 26.1% 31.5% 42.8%
(H22.3期) (H23.3期) (H24.3期)

* 売上総利益 … 106百万円

売上総利益率 26.4% 27.1% 24.1%
(H22.3期) (H23.3期) (H24.3期)

売上構成の変化

製商品割合	製品	商品
(H22.3期)	42.8%	57.2%
(H23.3期)	42.8%	57.2%
(H24.3期)	34.7%	65.3%

売上総利益率の変化

	製品	商品
(H22.3期)	48.1%	10.2%
(H23.3期)	47.8%	11.5%
(H24.3期)	46.5%	12.2%

* 販売費及び一般管理費 … + 137百万円

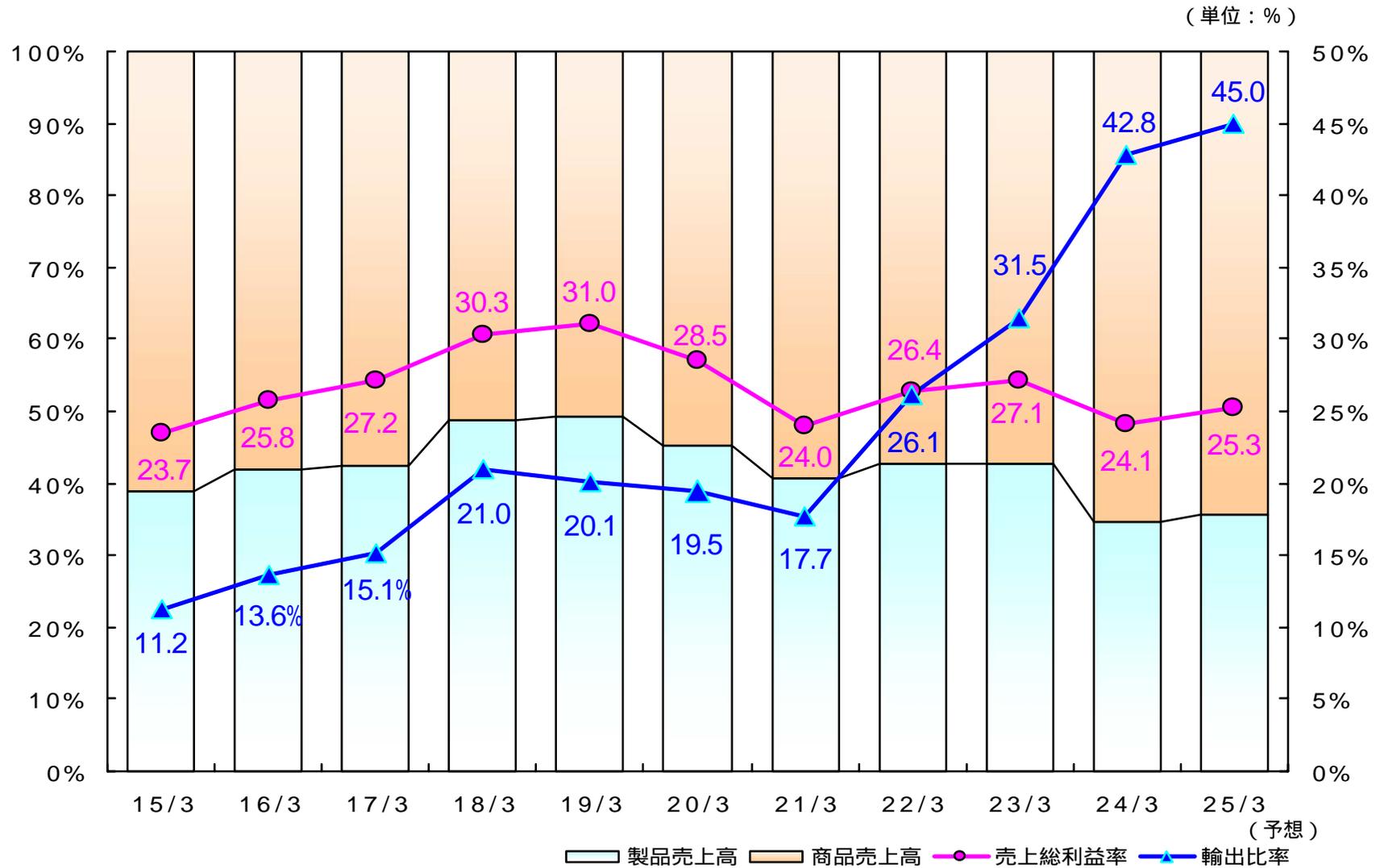
研究開発費 … + 94百万円

販売手数料 … + 68百万円

支払手数料 … 27百万円

その他 … + 2百万円

製品・商品別売上高比率・売上総利益率・輸出比率推移



貸借対照表の概要

(単位：百万円)

	平成23年3月期	平成24年3月期	増減金額
(資産の部)			
流動資産	8,979	7,657	1,322
現預金	4,145	2,992	1,153
売上債権	3,525	3,368	156
有価証券	70	110	40
棚卸資産	1,084	1,028	56
その他	155	158	3
固定資産	7,967	9,465	1,497
有形固定資産	2,599	3,355	756
無形固定資産	42	43	1
投資その他の資産	5,325	6,065	740
資産合計	16,947	17,122	175
(負債の部)			
流動負債	3,101	3,171	70
仕入債務	2,560	2,446	113
1年内返済予定 長期借入金	24	8	16
その他	517	717	200
固定負債	526	491	35
長期借入金	8	—	8
その他	519	492	27
負債合計	3,628	3,663	35
(純資産の部)			
純資産合計	13,318	13,458	140
負債・純資産合計	16,947	17,122	175

(主な資産・負債の増減内容)

- * 現預金・・・ 1,153百万円
- * 有価証券、投資有価証券・・・ + 884百万円
 - 償還 521百万円
 - 運用 + 1,439百万円
- * 棚卸資産・・・ 56百万円
 - 商品(ニッケル粉他) 50百万円
 - 原材料(めっき関係他) 17百万円
 - 製品 + 12百万円
- * 有形固定資産・・・ + 756百万円
 - 設備投資 + 1,062百万円
 - 減価償却費 300百万円
- * 流動負債(その他)・・・ + 200百万円
 - 未払法人税 + 33百万円
 - 設備未払金 + 64百万円
 - 設備支払手形 + 51百万円
- * 純資産・・・ + 140百万円

キャッシュ・フロー計算書の概要

現金及び現金同等物の減少・・・1,153百万円（期末残高 2,983百万円）

* 営業活動によるキャッシュ・フロー・・・951百万円

税引前当期純利益 632百万円、減価償却費 332百万円、売上債権の減少 156百万円
たな卸資産減少 56百万円、仕入債務減少 113百万円、法人税等支払 186百万円等

* 投資活動によるキャッシュ・フロー・・・1,760百万円

有価証券取得による支出 1,439百万円、売却・償還による収入 548百万円
有形固定資産取得による支出 859百万円等

* 財務活動によるキャッシュ・フロー・・・340百万円

ファイナンスリース債務の返済による支出 55百万円、配当金支払 261百万円等

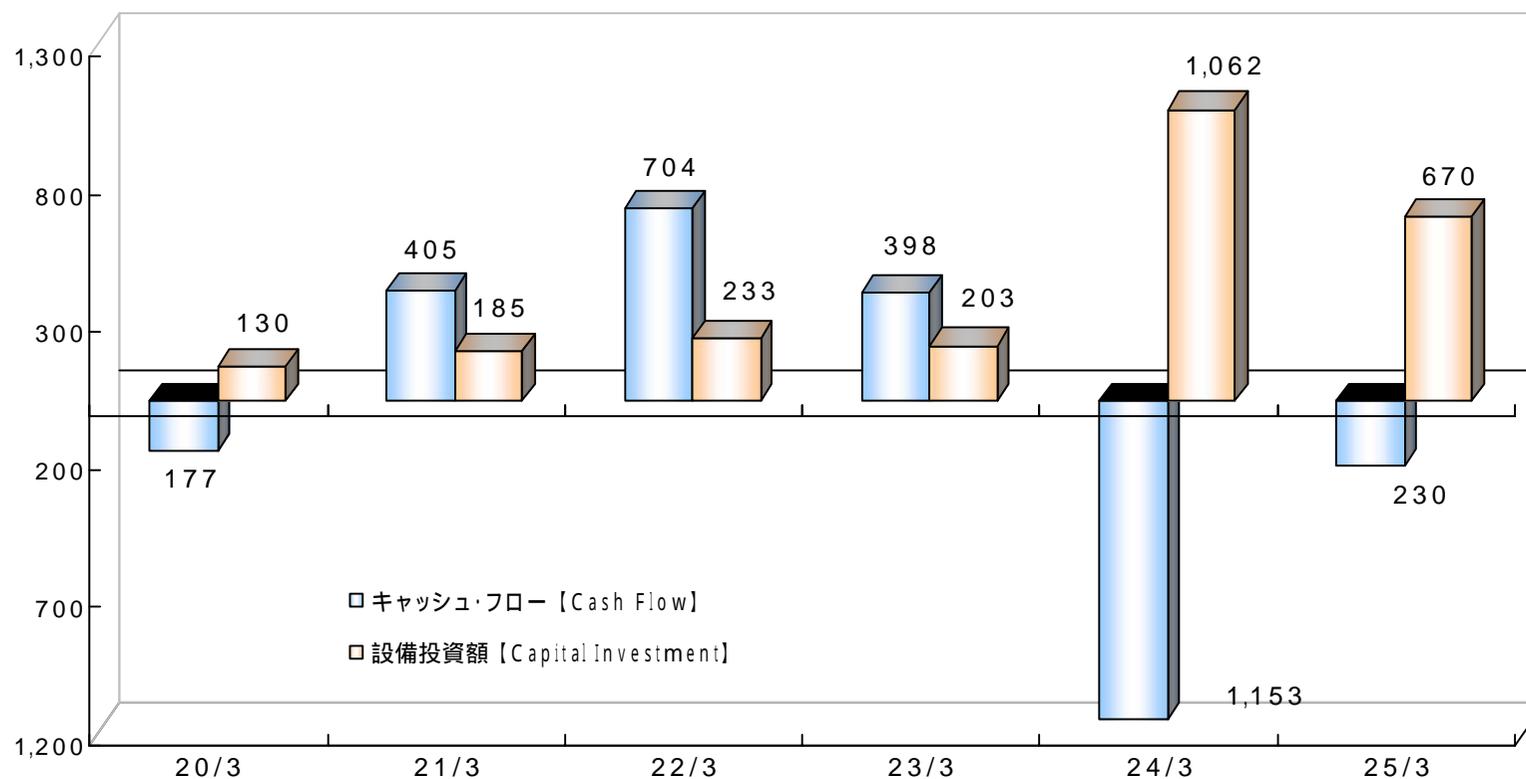
（単位：百万円）

	平成23年3月期	平成24年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	849	951
投資活動によるキャッシュ・フロー	696	1,760
財務活動によるキャッシュ・フロー	262	340
現金及び現金同等物の増減額	398	1,153
現金及び現金同等物の期首残高	3,738	4,136
現金及び現金同等物の期末残高	4,136	2,983

キャッシュ・フローと設備投資額の推移

(単位：百万円)

	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3 (予想)
キャッシュ・フロー [Cash Flow]	177	405	704	398	1,153	230
設備投資額 [Capital Investment]	130	185	233	203	1,062	670
減価償却費 [Depreciation Expenses]	252	270	259	310	300	400



新技術・新製品開発の状況

(代表取締役専務 時澤 元一)

技術動向

はんだめっきの技術動向

新製品開発の状況

フォトシタリング型導電性銅ナノインクについて

概 要

インクジェット印刷技術を使い、柔軟に曲がるフレキシブル基板に回路を描ける銅ナノインクを開発。基板に銅膜を張ってから不要な部分を除去するエッチングに比べ銅の使用量が半分以下になるほか大掛かりな設備が不要になる。銅ナノインクの製品化により、印刷方式による回路形成技術を実用化できる。

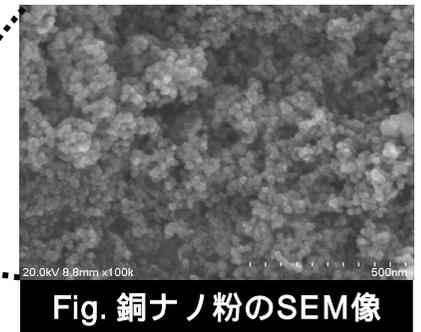
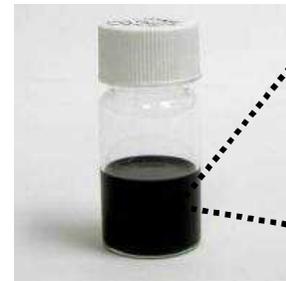


Fig. 銅ナノ粉のSEM像

特 徴

大気下、室温、短時間で焼成可能プロセスであり Roll to Rollへの適用も可能です。

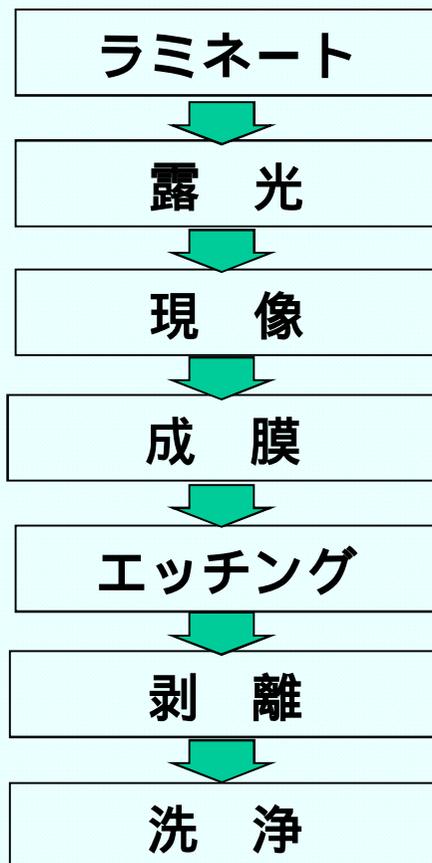
純銅に近い比抵抗の皮膜が得られます。

めっき法による増膜が可能です。

従来法と比べると

従来法

(フォトリソプロセス)



印刷法

(導電性インクの場合)



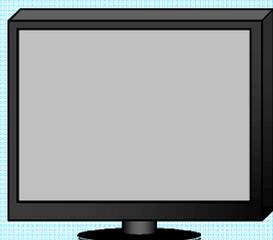
プリンテッドエレクトロニクスについて

印刷法により電子回路、電子部品などを製造

~ 想定されるアプリケーション ~

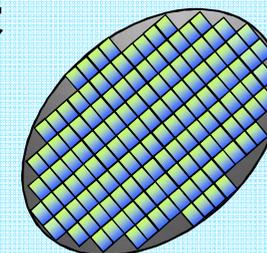
ディスプレイ

有機EL
電子ペーパー
液晶パネル



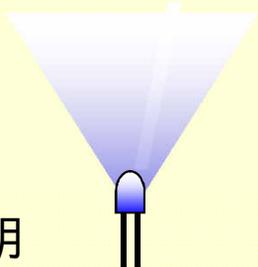
半導体、実装

3次元実装
パッケージ



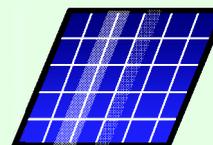
照明

LED
有機EL照明



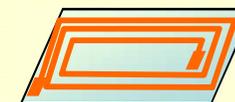
エネルギー

色素増感
太陽電池
結晶系太陽電池

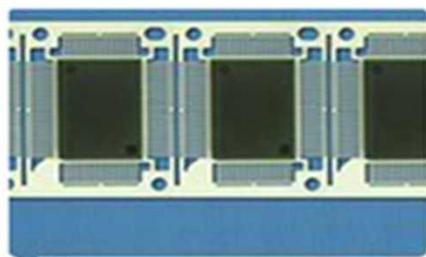


基板、アンテナ

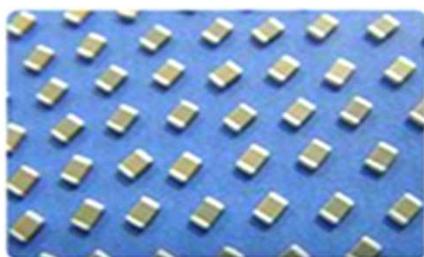
プリント基板
RFID
センサー
セラミックコンデンサー



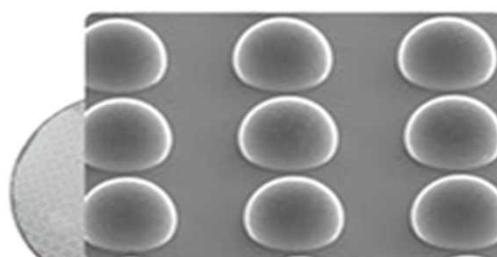
めっき製品紹介



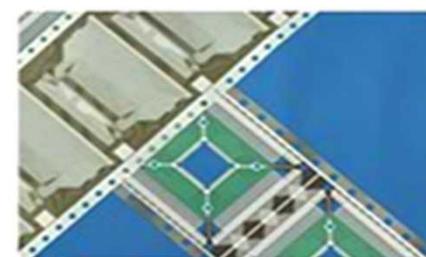
IC用



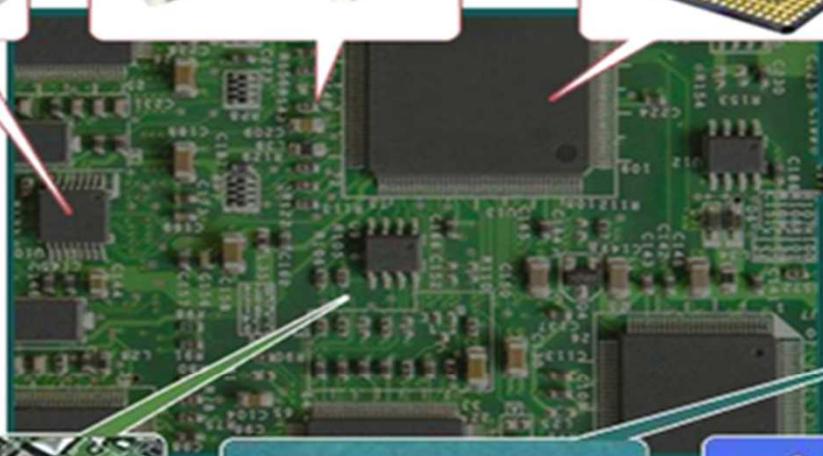
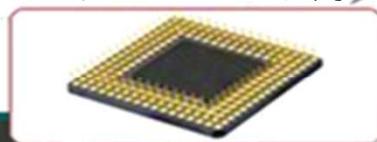
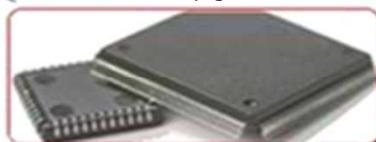
チップ用



ウエハーバンプ用



TAB・COF用



タブレット

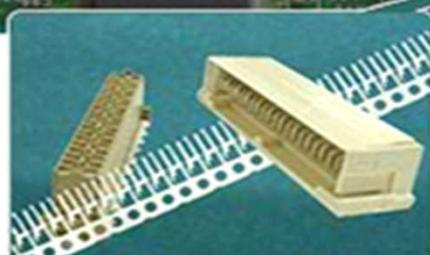


スマートフォン

パソコン



FPC・PCB用



コネクタ用



一般用

《参考資料》

経営の基本方針

当社の特徴

営業品目別売上高推移

(平成14年度実績～平成24年度予想)

研究開発人員と研究開発費

業績の推移と配当

総資産・純資産・1株当たり純資産・自己資本比率の推移

展示会出展予定のご案内

経営の基本方針

経営の基本方針

- (1) 当社は自己開発・商品開発・市場開発の「三つの開発」を企業理念とし、ニッチ市場といわれる事業分野で高い市場占有率を維持し、基幹となる3つの分野で事業をバランスよく展開し、各々の収益力を高め、総体として会社の業績の伸長をはかる。
- (2) このような事業活動を通じて常に新しいニーズの創造・発掘に取り組み、会社の発展を通じて、株主・取引先・従業員など関係各位の信頼と期待に応え、社会に貢献していく。

企業価値及び株主共同の利益の確保・向上に努める。

全てのステークホルダーの満足度向上

当社の特徴

事業領域

界面化学を中核技術に3つの分野で4つの事業を展開
「全天候型経営」による事業リスクの分散

ニッチ市場で高い占有率

はんだめっき液で国内トップシェア
鉛フリー製品（環境配慮型製品）

研究開発型企业

強固な研究開発体制

全従業員の1/3程度を研究開発人員に充てる

研究開発費 ⇨ 売上高の増減により変動するが、概ね製品売上高
10%程度を投入する

各大学・試験所との連携による研究開発

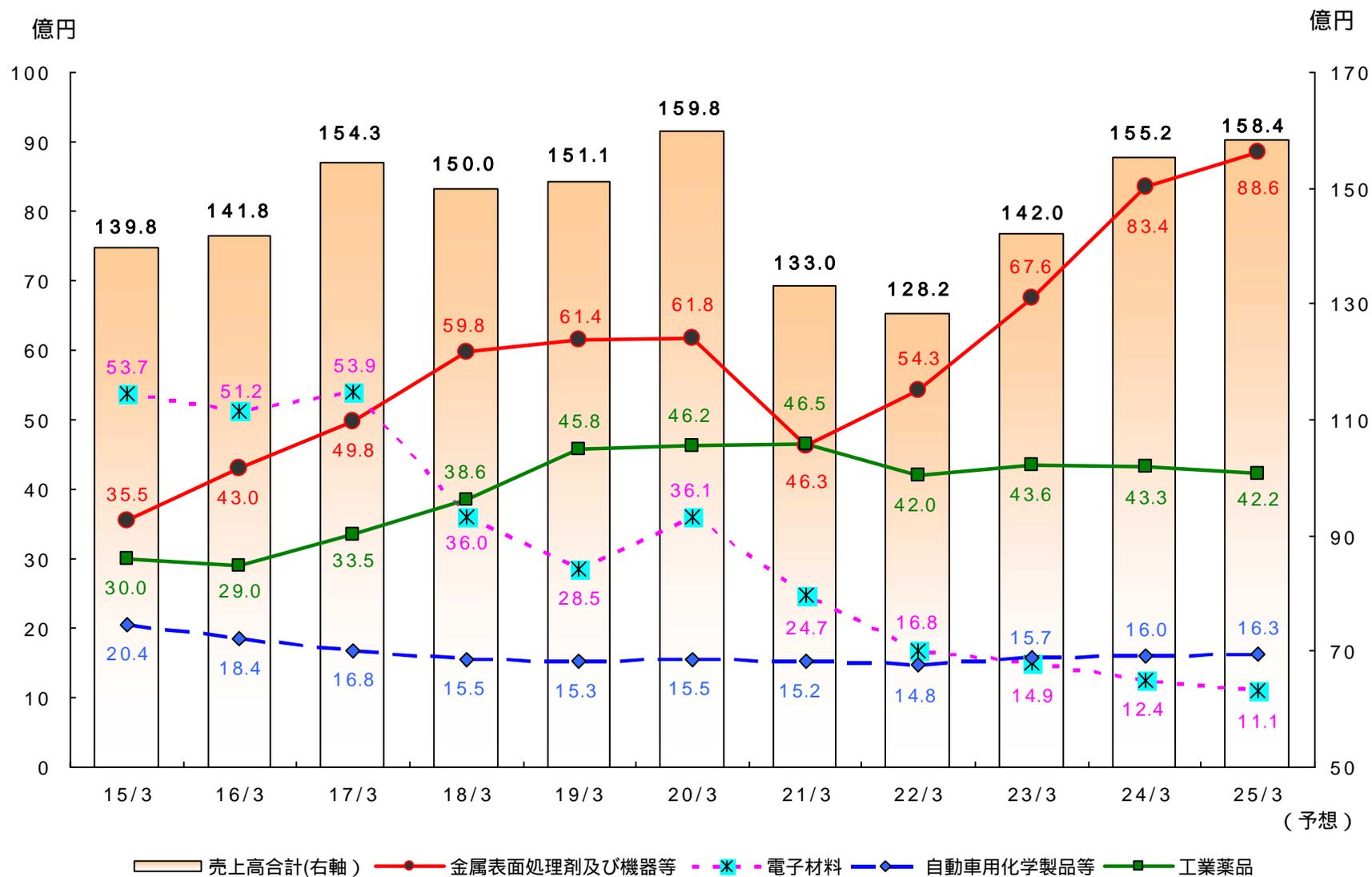
技術サポート

技術サポート力を基盤に、技術フォローまで含めた高付加価値サービスの提供

安定した事業基盤、財務基盤に基づくパートナー企業との信頼関係の上で
新製品開発・新市場開発を展開しています。



営業品目別売上高推移（平成14年度実績～平成24年度予想）



研究開発人員と研究開発費

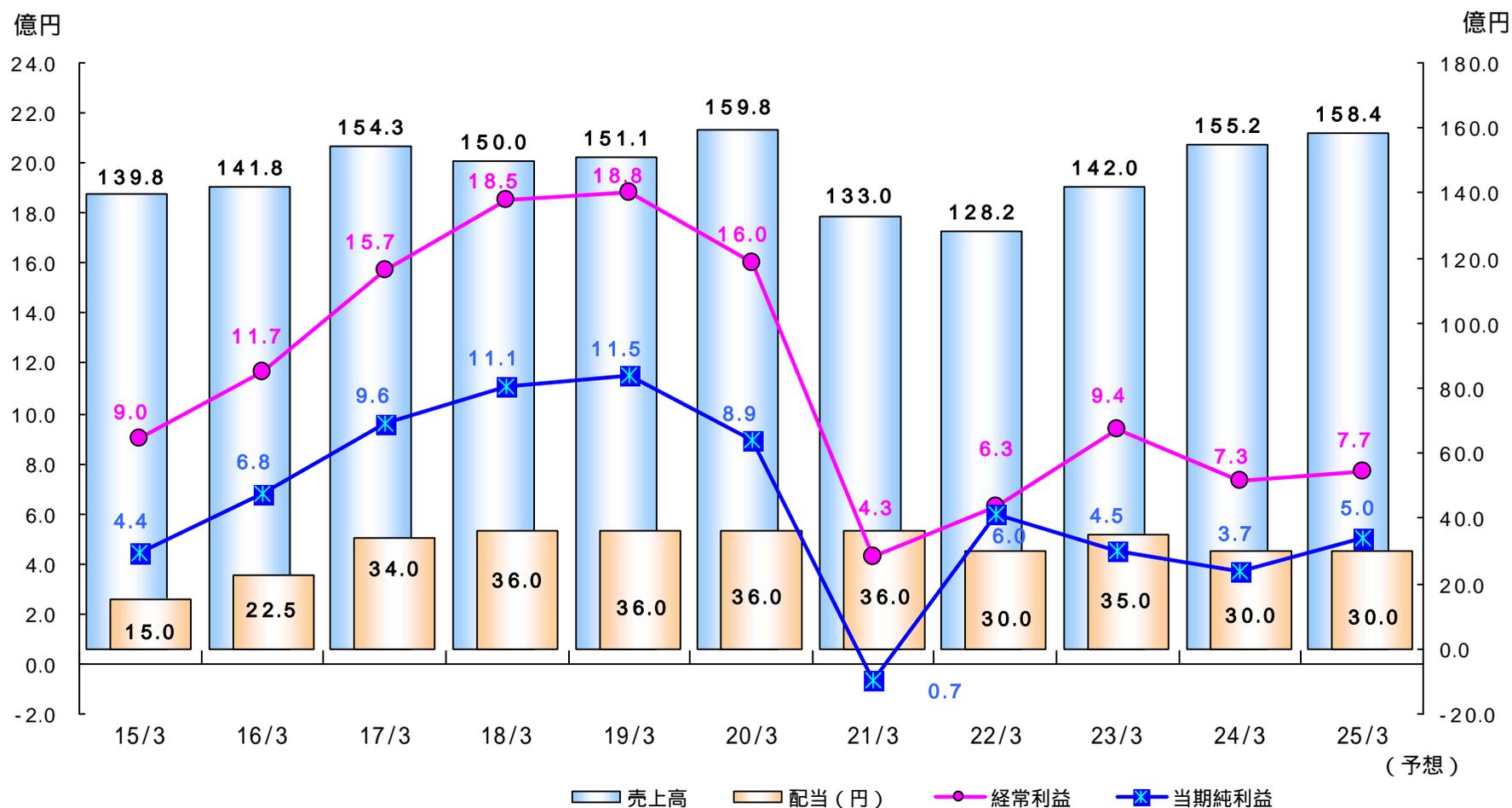
	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3 (予想)
従 業 員	180	182	178	183	182	184	190	198
研究開発人員	53	55	58	62	63	72	77	81
割 合		概ね1/4が研究開発要員 1/3へ						

(単位：百万円)

研究開発費	639	680	724	770	798	786	879	1,080
研究開発用設備取得 (リース資産も含む)	54	104	111	68	117	75	210	190
製品売上高 研究開発比率	8.7%	9.1%	10.0%	14.2%	14.5%	12.9%	16.3%	19.1%

研究開発型事業の多い当社では、守秘義務契約により進められている開発テーマが多くそれら詳細情報の開示には制限が課せられております。

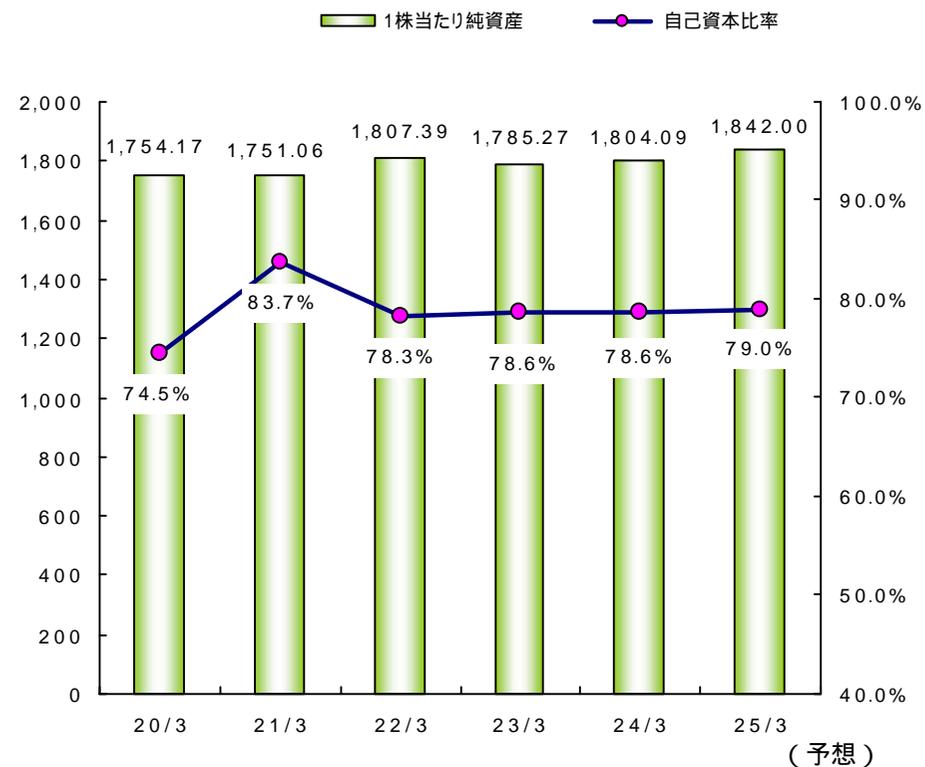
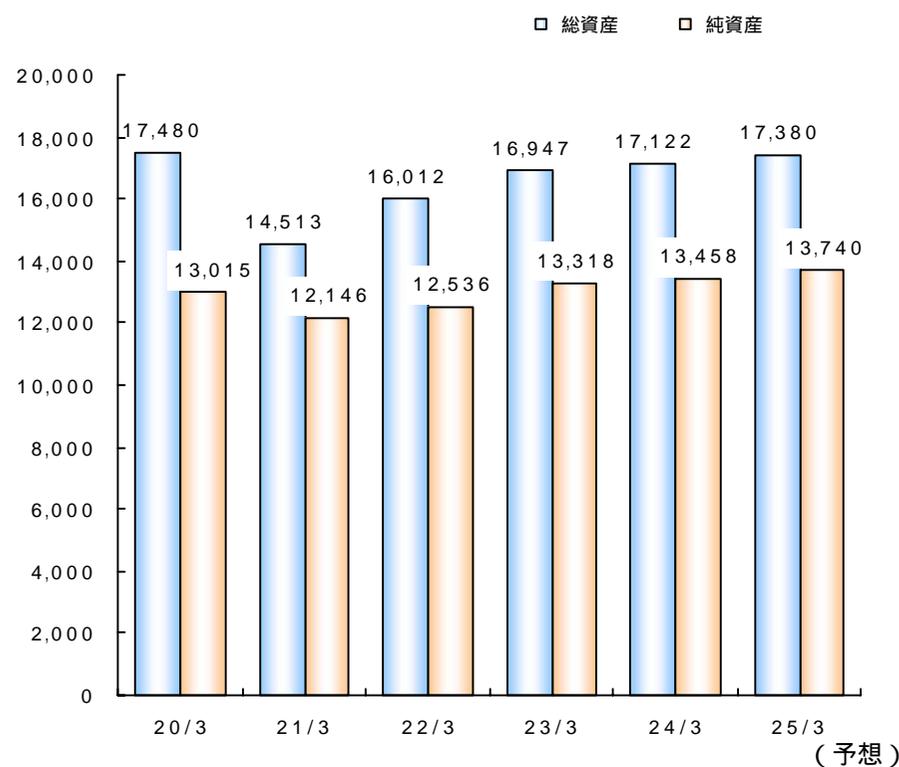
業績の推移と配当



	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3 (予想)
配当性向	26.44%	25.35%	26.98%	24.81%	23.23%	29.73%		34.44%	53.30%	59.90%	44.80%

総資産・純資産・1株当たり純資産・自己資本比率の推移

			20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3 (予想)
総資産	[Total Assets]	(百万円)	17,480	14,513	16,012	16,947	17,122	17,380
純資産	[Shareholders Equity]	(百万円)	13,015	12,146	12,536	13,318	13,458	13,740
1株当たり純資産	[BPS]	(円)	1,754.17	1,751.06	1,807.39	1,785.27	1,804.09	1,842.00
自己資本比率	[Equity Ratio]	(%)	74.5%	83.7%	78.3%	78.6%	78.6%	79.0%



展示会出展予定のご案内

▶ 第42回国際電子回路産業展

JPCA Show 2012

- ・ 日時 2012年6月13日(水) ~ 15日(金)
- ・ 場所 東京ビックサイト



<http://www.jpca-show.com>

- この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点において当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。
- 当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めてまいります。本資料記載の業績見通しのみ全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願い致します。
- なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわれぬようお願い致します。

ありがとうございました

平成24年6月

石原薬品株式会社

(東証二部・大証二部 4462)

URL: <http://www.unicon.co.jp>